

「願い事を叶える」

北海道 弘濟寺 藤村克宗

新しい歳を迎えますと、私の預かるお寺では正月三ヶ日を皮切りに節分や初午など二月の半ばぐらいまで数回の御祈祷法要が続きます。私は、御祈祷を希望される檀信徒の方は「なるべく法要に参列してください」とお願いしています。例えば離れたところに住んでいるお孫さんの高校受験のために合格祈願を申し込まれる優しいお婆ちゃんも居られますし、厄年に当たる現役の会社員の方が厄払いの申込をされる場合もありますから、全て本人が法要に来られるのは難しいのですが、せめて縁の近い方でもお参りされることを勧めているのです。

そんな中、一月中旬に行われた山門大祈祷会の際にこんなできごとがありました。健康祈願を申し込まれた八十代のAさんという女性なのですが、自宅がお寺から遠く参詣できなかつたため、私は法要の翌日に御札と御守りを届けに伺いました。すると、とても申し訳なさそうにその御札の包みをしっかりと両手で握りしめ「方丈さん、幸せを届けて戴いてありがとうございます。これで今年一年、頑張れる気になれます」と言って喜んでくれたのです。

御祈祷をして戴き、御札や御守りを手にすれば私たちはその願い事が叶うかのように思ってしまいがちです。しかし、交通安全の御祈祷をして交通事故が全く起きないのであれば、誰もがそういたしますし、この世から事故は無くなります。魔法ではありませんから、そう都合良くいくはずはありませんよね。

御祈祷は願い事を叶えて下さろうとする仏様の御心と、真剣にお勤めくださる導師のお気持ちに、それを信じて祈る自らの心を重ね合わせて動き出そうとすることが重要なのです。Aさんは健康祈願をしたから健康になれると思ったのではなく、「身体健全」と書かれた御札を「幸せ」と感じ受け取ってくれました。そして幸せを戴いたのだから、今年一年「健康」で過ごせるように自らが精進しようという気になってくれたのです。信じて祈る、そして行い続けることで願い事を叶えられるのは他ならぬ自分自身なのです。